

## 演習問題6

変数分離法を用いて二次元ラプラス方程式

$$\frac{\partial^2 f(x, y)}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 f(x, y)}{\partial y^2} = 0$$

の  $f(x, y) = f_x(x)f_y(y)$  の形の解を求め、境界条件

$$\lim_{x \rightarrow \infty} f(x, y) = 0, \quad f(x, 0) = f(x, L) = 0$$

を満たすものを導け。(ヒント:  $\lim_{x \rightarrow \infty} f(x, y) = 0$  になるには、 $f_x(x)$  が指数関数の結合  $f_x(x) = \alpha_1 e^{\omega x} + \alpha_2 e^{-\omega x}$  の形式になり、かつ  $\alpha_1 = 0$  とならなければならない)

【解答例】

$$f(x, y) = f_x(x)f_y(y)$$

とおくと、方程式は

$$f_y(y) \frac{d^2 f_x(x)}{dx^2} + f_x(x) \frac{d^2 f_y(y)}{dy^2} = 0$$

となるので、ある定数  $\mu$  に対して連立方程式

$$\begin{cases} \frac{d^2 f_x(x)}{dx^2} + \mu f_x(x) = 0 \\ \frac{d^2 f_y(y)}{dy^2} - \mu f_y(y) = 0 \end{cases}$$

が成り立つ。

上記の連立常微分方程式において、 $f_x(x)$  に関する方程式の特性方程式は

$$\lambda^2 + \mu = 0$$

となるので、 $\omega = \sqrt{|\mu|}$  とした場合、 $\mu$  の符号によって  $f_x(x)$  以下の形式となる

$$\begin{cases} \alpha_1 e^{\omega x} + \alpha_2 e^{-\omega x} & \mu < 0 \\ \alpha_1 + \alpha_2 x & \mu = 0 \\ \alpha_1 \cos \omega x + \alpha_2 \sin \omega x & \mu > 0 \end{cases} \quad (1)$$

(1) の解の形式から、 $f_x(x) = 0$  以外<sup>1</sup>に、境界条件  $\lim_{x \rightarrow \infty} f(x, y) = 0$  を満たすためには、 $f_x(x) = \alpha_1 e^{\omega x} + \alpha_2 e^{-\omega x}$  の形式で、かつ  $\alpha_1 = 0$  の場合である。つまり、 $\mu < 0$  の場合である。

$\mu < 0$  で、 $f_y(0) = f_y(L) = 0$  の境界条件を満たすには

$$\mu = \left( \frac{n\pi}{L} \right)^2, \quad n = 1, 2, \dots$$

---

<sup>1</sup>この場合には明らかな解  $f(x, y) = 0$  となる。

の場合なので  $\alpha_2 = 1, n = 1$  とした関数

$$f(x, y) = e^{-\frac{\pi}{L}x} \sin \frac{\pi}{L}y$$

は与えられたラプラス方程式と境界条件を満たす .

$$f(x, y) = e^{-\omega x} (\cos \omega y)$$